

「認知症と在宅医療」～2025年問題に迫る～

広島県支部主催・医業経営セミナーから

日本医業経営コンサルタント協会広島支部は、2007年度より毎年、医療関係者を対象に医業経営セミナーを開いているが、本年も3月23日（土）に2012年度医業経営セミナーを開催した。

講演は第一部「認知症予防の最新情報」（講師：鳥取大学医学部 生体制御学 教授 浦上克哉氏）と第二部『「地域に“寄りそ医” 20年」～地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語～』（講師：おい町国保 名田庄診療所 所長・自治医科大学地域医療学 臨床教授 中村伸一氏）の2題。このうち「認知症予防の最新情報」のポイントを紹介する。

「認知症予防の最新情報」では、早期発見から予防対策について認知症研究の専門家の立場から報告がなされた。認知症とは、もの忘れのために日常生活や社会生活に支障をきたす状態をいい、日本に約300万人、65歳以上の10人に1人に当たる。認知症予防の概念は、第1次予防（病気の発症予防）第2次予防（病気の早期発見・治療）第3次予防（病気の進行防止）に分けられる。

第3次予防：病気の進行防止では、アリセプト、

メマリーなどの治療薬が効かない、副作用で興奮するなどの報告がある。しかし3分程度しか持続しない患者の記憶を半日まで延長できることが、患者や介護者にとって、どれだけ気持ちが楽になり嬉しい効果なのか正しく評価されてない等、誤解も多い。副作用の「興奮して怒る」「食欲がなくなった」に対して、状況をゆっくり尋ねてみると興奮する相手が決まっていたり、患者好みの献立であればよく食べる等、薬の副作用以外に起因していることが多い。認知症の人への対応法の要点は、ご本人の気持ちを理解してあげることである。

第2次予防：病気の早期発見・治療では、“もの忘れ”からの早期発見が大切になる。

○単なるもの忘れ（正常）

- 1) 内容の一部を忘れる
- 2) 人の名前が出てこない
- 3) ヒントがあれば思い出せる

○病気によるもの忘れ（認知症）

- 1) 内容を全部忘れる

●図表1 認知症簡易スクリーニングシート

年 月 日

ご本人の氏名

以下の欄でご本人に質問、およびご自身の様子を記述いただき、
成績を記入し、医師が簡易認知症診断を実施してください。

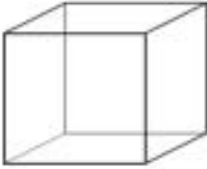
	予設問	正解	
手探しの記憶	ご自分の名前や住所の電話番号を覚えておくことが、 最近できなくなりましたか？（以下各質問は「はい/いいえ」で答えてください）	○ 0	○ 1
	○ はい	○ いいえ	
	○ はい	○ いいえ	
時間的記憶	昨日の出来事や出来たこと、 （何曜日、曜日が出発日とそれ以外の日など）	○ 0	○ 1
	○ はい	○ いいえ	
	○ はい	○ いいえ	
視覚的記憶	ご自分の顔や（お名前、 年齢など）を覚えておくことが、 最近できなくなりましたか？	○ 0	○ 1
	○ はい	○ いいえ	
	○ はい	○ いいえ	

合計： / 15点

診断結果 15～12点：特に問題ありません。
12～8点：医師にご相談ください。

医師記入用

上の図形と同じものを描いて、医師にお渡しください。



ご本人

認知症簡易スクリーニングシート

医師が簡易認知症診断を実施し、
診断結果に基づき、必要に応じて認知症専門医に
紹介させていただきます。

※本シートは、認知症の診断に代わるものではありません。
また、本シートは、認知症の診断に代わるものではありません。

2) メモをしていても、メモがわからない

3) 今まで使っていた道具が使えなくなる

日常の診療のできる簡易スクリーニング法

1) 言葉の遅延再生

3つの言葉を覚えてもらい、別の質問を挟んだ後に思い出してもらおう

2) 時間の見当識

今日は何年の何月何日で何曜日かを答えてもらおう

3) 立方体の模写

立方体を描いてもらおう

(アルツハイマー型認知症の特徴である頭頂葉の血流低下を反映)

物忘れ相談プログラムを用いたスクリーニング検査のROC解析から、カットオフ値12、感度96%、特異度97%と有用性が認められた。

また個人情報を守られ、導入がしやすく検者による差異がないタッチパネル式コンピューターを用いた認知症スクリーニング検査も信頼性が高い治療評価法である。

第1次予防：発症予防には、認知症予防教室など地域連携が不可欠になる。鳥取県では琴浦町を始め11の市町村が、認知症予備軍を早期発見するために、先のタッチパネル式の認知症スクリーニング検査を行っている。15点満点中、13点以下の人には同じくタッチパネルを用いた二次検査「TDAS」※を行う。その結果、認知症の疑いがある人は専門医療機関を紹介し、軽度認知障害の人には、認知症予防教室への参加を促している。

●図表2 日常の診療のできる簡易スクリーニング法

3つの検査項目

1. 言葉の遅延再生

3つの言葉を覚えてもらい、別の質問を挟んだ後に思い出してもらおう



2. 時間の見当識

今日は何年の何月何日で何曜日かを答えてもらおう

3. 立方体の模写

立方体を描いてもらおう
(アルツハイマー型認知症の特徴である頭頂葉の血流低下を反映)



※TDAS: Alzheimer's Disease Assessment Scale (ADAS) を参考にして作成されたテスト

認知症予防教室では、血圧測定から体操や音楽・計算などのプログラムが組み立てられており、効果を評価するために教室の前後でTDASを行っている。この認知症予防教室の取り組みは、青森県から福岡県まで全国に広がっている。認知症を予防し、早期に発見し、進行を防止して認知症になっても安心して暮らせる町づくり、そして認知症予防ができる町づくりへと向かっている。個人向け予防対策としては、認知症になりやすい生活習慣（頭に刺激のない生活）を避け、脳を活性化させる方法として、日記を書く、短歌・俳句を作る、運動をする、笑うことが大切だと浦上氏はまとめた。

高い評価・大きな反響

今回のセミナーには、過去に例のないほど多くの反響（アンケート）が参加者から寄せられ、「認知症予防・早期発見の必要性・重要性をよく理解できた」、「認知症患者の“急性期対応医療のニーズ”に対する医業経営コンサルタントの必要性を感じた」、「医療の本質を見せていただいたようで、大変勉強になった」、「勤務先でも認知症医療ケアに取り組んでいるので、今後の業務に生かしたい」、「薬局薬剤師ですが、患者さんには認知症第1次予防を提案していきたい」と意識しながら今後の仕事に役立てていきたいと思った」など、多数の感想、ご意見をいただいたことを付け加えたい。

(本部広報委員 藤井 康彦)